

天文科学館の魅力向上の取組について

1 概要

天文科学館は、震災後のリニューアルから27年が経過し、空調設備等の改修が必要な状況となっています。そこで施設の大規模工事を行うとともに、工事期間を利用し、天文科学館の魅力向上のための整備を行います。工事期間中、天文科学館を休館しますが、オンライン配信等により、天文科学館の魅力発信に努めるとともに、移動式プラネタリウムの活用等により、学校園における学習の機会を確保します。

2 事業内容について

(1) プラネタリウムの魅力向上

天文科学館のプラネタリウムは、旧東ドイツ製の大型プラネタリウムで、国内現役最古という歴史的価値を持ちます。美しい星空を投影し学芸員による生解説をおこなう伝統的な投影スタイルは全国的にも高く評価されています。この度、プラネタリウムの魅力を一層高めるために、周辺設備の整備を行います。

○全天周映像用プロジェクターの更新

- ・プラネタリウムドームに全天周映像を映し出すためのプロジェクターを更新します。

○プラネタリウムドーム音響設備修繕

- ・スピーカーや音響ミキサー等の修繕を行うことで、より良い音響空間でのプラネタリウム体験を実現します。

(2) ホスピタリティの向上

○空調設備改修及び照明LED化工事

- ・震災リニューアル後27年経過し、猛暑の夏休み期間にエアコンが故障し、緊急対応の必要があるなどの不調が頻発するようになってきました。空調工事と同時に照明LED化の工事を行うことで、効率よく館内設備の更新を行うことができるほか、CO₂排出量とランニングコストの軽減にも寄与すると考えています。

○外壁改修及び屋上防水工事

- ・屋上（4階日時計広場）については、人工芝やクッションシートを採用するなど、安全性や美観を高め、憩いの場としての魅力を向上します。

○エレベータ修繕

- ・設置後27年経過したエレベータを更新し、速度を向上させます。

○天体望遠鏡制御機器修繕

- ・16階観測室の天体望遠鏡は、市民が本物の宇宙を観察する貴重な場所となっており、

天体観望会に加え、近年では天文現象の配信にも積極的に使用しています。1998年のリニューアル時に設置されたことから、故障が発生する状況になっており、必要な機器の修繕をおこない、一層の活用を図ります。

3 休館期間について

(1) 休館期間

令和7（2025）年10月から令和8（2026）年6月までを予定しています。

※令和7年度は正月開館についても休止します。

(2) 休館期間中の取組

①天文科学館の魅力発信

- ・館外での観望会、天文講座、特別展などの積極的な実施、オンライン配信の充実など、天文科学館の魅力発信に努めます。

②学校園生徒・児童の学習機会の確保

- ・学校園の生徒・児童の学習機会が減少することのないよう、移動式プラネタリウムの活用を図るなどの取組を行います。

③登録博物館への移行

- ・博物館法改正に伴う登録博物館への移行に向け、申請に必要な作業を進めるなど、再開後の体制の充実にむけた取組を行います。

4 予算額（案）

○空調設備改修及び照明LED化工事	396,200千円
○外壁改修および屋上防水工事	85,700千円
○エレベータ修繕更新工事	49,000千円
○プラネタリウム音響設備改修工事	50,000千円
○天体望遠鏡改修工事	8,000千円
○プラネタリウム全天周映像用プロジェクター	2,800千円

5 その他

令和7年前半は、2023年10月より実施してきたプラネタリウム100周年が、2025年5月にグラウンドフィナーレを迎えます。全国各地で開催された100周年企画を振り返るとともに、シゴセンジャー20周年を振り返る特別展「プラネタリウム100周年×シゴセンジャー20周年」を開催するなど、例年同様に積極的な取組を実施します。